

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202254		
法人名	(株)イッセイ		
事業所名	グループホーム平和		
所在地	静岡市清水区西久保1丁目13-26		
自己評価作成日	令和元年 11月 19日	評価結果市町村受理日	令和2年 1月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	令和元年 12月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム開設から13年経過し入所時より85名の認知症高齢者の尊厳を考えながら運営してまいりました。殆どの認知症高齢者が穏やかな最期をここで迎えます。色々なことを忘れてしまっても「ありがとう。〇〇さん」と最期に聴いた言葉の重さが耳について離れません。いろいろなことを受け止めて許して前に進んでいくことができる心の広さを学んでいます。そしてやりがいを持って運営しています。

事業所の利用者は居室に籠ることなく長い時間をリビングで過ごしている。利用者はリビングで過ごす事で安心感から落ち着いて過ごす事ができており、職員もゆったりとした雰囲気の中で利用者に関わっていた。料理の下ごしらえや縫い物、洗たく物たみなどを手伝う利用者がおり、残っている機能ができる範囲で生かす支援を心がけている。昨年度は様々な出来事がある中で6名を看取ったが、看取りに関わる職員間の連携がしっかり取れていた。居室には利用者ごとに職員手作りのアルバムが置かれ、家族が見る事ができない表情や行動の写真が時系列にまとめられ、家族から好評を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自治会活動、地域商店の利用、バザー活動等地域に浸透した活動を行っています。	事業所理念「最期まで人として生きぬく」を玄関に掲示しているが、周知及び共有方法は特に決めていない。管理者がケアカンファレンスや日頃の支援の中で職員に直接伝えている。	理念とは事業所が目指すサービスのあり方を示したものである。管理者、職員共に周知し、継続的に意識付けする方法を話し合い実践に繋げていく事が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表者は地の神様である鹿島神社の総代長をさせていただいて祭事を含めて地域との交流は密にあります。	自治会に加入しており、法人代表者が地域神社の総代長をしている事で地域との交流は円滑である。利用者は地区の祭りや防災訓練に参加し、事業所で実施する平和まつりのバザーには多くの地域住人が訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者のご家族が問題を抱え近隣住民や民生員がホームで話し合いを行い支援策を話し合ったことがあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では死亡退去したご利用者のご家族の現状と地域で今後どのように支援していくかの話し合いが行われました。	運営推進会議は年4回実施している。外部からは毎回民生委員数名と地域包括支援センター職員1名の参加があり、意見や情報の収集ができています。管理者が事業所の様子を伝え、出席者からは地域の介護事情等についての話が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	昨年は、市役所の担当者から運営推進会議に参加して下さりホームの現状、地域の住民たちの困りごと等活発な意見を交換しました。今年度は、市の担当者との話し合いは、まだ行われていません。	市担当者に相談を持ちかけても前向きな回答が得られない事が多く、関わりが薄くなりつつある。次回防災訓練で行うAED講習への協力をお願いし、関係継続に向けて努めていく考えである。定期的に介護相談員の訪問がある。	市担当者に事業所の実情等を伝え、積極的に相談していく事が望まれる。現状や情報を共有し、共に現場の問題解決に取り組む姿勢が期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、身内の方から同意書をとり施錠のあった事実を記録として残したりしました。	身体拘束廃止委員会を設置し、2ヶ月に1回身体拘束廃止に向けて話し合い、共通認識を図っている。現在無断離所する利用者はなく、玄関は夜間以外施錠していない。状況により、止むを得ず施錠する際には家族の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待への意識はミーティングでも議題として取り上げられ介護を顧みる機会として取り上げられていることがあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市長申し立てで成年後見人が付いているご利用者がいますが必要性は十分にありません。しかしご自身が強い反発心を持っていらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の相談を受けた際に、ご家族との面談だけでなくご本人の居宅や病院に会いに行き心配事や疑問点などを聞き出し安心していただけるような会話を心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、前月の介護記録一日一コマを記入したコピーを送っている。その際に意見や要望等があれば来所時にお話くださるよう一言添えて意見します。、要望等は来所時に伺えるよう職員からご家族に声をかけるようにしています。	家族会を実施していないので、主に面会の際に意見や要望を確認している。毎月のお便りに同封して介護記録の写しを送り、状況報告をしている。家族の来所時には、職員から声をかけて要望等を言いやすいように配慮している。	家族会を開くことが難しい状態を打開する方法(例えば常に事業所を訪問してくれる人の都合尋ねたり、運営推進会議と一緒に実施する等)を考え、開催することが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回賞与時に個別で面談を行い体調面や勤務上の悩み等を聞き出すようにしています。	面談は夏冬年2回で、会社代表者と管理者が1回ずつ個別に実施している。職員は勤務表、勤務時間、体制について話している。管理者に話し難い事でも異業種の会社代表者になら話せる事があり、聞き取り内容が次年度に繋がることを管理者は望んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員によっては家庭の事情を踏まえて勤務・条件を考慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格での職員が実践を経て介護職員初任者研修を受けました。今後は、介護福祉士資格をとるまで会社として補助していきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は、介護職員初任者研修での研修時に他施設職員と交流する機会がありました。同業者として様々な人とかかわりを通して思うことがあったようです。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人を訪問し心身の状況を観させていただいています。その際に、ご本人からも困っていることの聞き取りを行い入所前に暫定のサービス計画書を作成し職員にも情報共有しています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談に時間をかけご自宅や、病院等に出向きご家族の不安を傾聴し安心できる回答を心掛けています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に居宅や病院に出向きニーズの優先を判断し課題解決できるようにしています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	不安を強く訴え落ち着きのないご利用者に一緒に台所仕事を手伝っていただいています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	13年入居されている方がいます。長い年月の中でのご利用者の入居に至るまでの生活歴を聴いております。高齢化という状況の変化とともに憎しみから絆が生まれご利用者、ご家族が穏やかな日を送っているケースがあります。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	夫が死去し在宅で支援が受けられず入居されてきたご利用者がいます。今でもたった一人になってしまった支援者の方が面会に来られては食事に連れ出してください。	近隣から入居した利用者の家族は頻繁に来所している。墓参りと外食を兼ねて家族と外出したり、タクシーを使って友人と車椅子で数時間出かけたり、散髪がてら自宅に帰る利用者もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席は、ご利用者どおしの相性を観て調整しています			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	父が亡くなり認知症の母親が骨折し病院での加療を受けて施設に入所してきました。介護者となる娘は逸脱した行為が多くありました。近隣者とのトラブルもありましたが地域で支援の輪ができ母親は死去してしまいましたが現在家で一人で暮らしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護されたくないご利用者がいます。世話を焼いてもらいたくない。自分から困ったことは言ってくるので待つ介護を行っています。	高齢化のため、散歩や買い物の外出支援が減っている。居間のテレビを見ている事が多いが、居間で皆と過ごす事で利用者は安心して落ち着いている。職員は様子を見守りながら不穏になった時に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴、環境、支援者のこと等書面で職員に伝えます。後にミーティングで情報共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1のミーティングでケアカンファレンスを開催し定期的な見直しや気になるご利用者の介護内容の見直しをおこなっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	周囲から孤立したご利用者が入所中です。入所から2回無断離所され警察に捜索願を出したこともあります。自宅はごみ屋敷で住める環境がなく金銭面でも後見人が付いています。よりよく暮らすためのアイデアはご利用者にとっては迷惑な話のようです。	介護計画の見直しは、長期で2年、短期で半年を基本としている。状況が変化した時点でモニタリングを行い、家族に来所してもらい直接確認を取っている。遠方の家族や後見人の来所は難しいため、書面で確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に時間をかけないよう個々の介護記録は日中・夜間一コマが記入されている。気になるご利用者は業務日誌に記入し他職員に報告しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身寄りがなく後見制度を利用されている方が買い物や内科以外の受診を望まれました。職員が計画し他科の受診や自分で選んで洋服を購入してきました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	総合病院受診の際にホーム近くにある介護タクシーをご利用されて一人で病院まで出かけてます。病院では後見人さんが待っていてくださり受診に同行されています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は、入所時に往診医の必要性を説明し同意していただいています。	事業所の主治医は内科医で、急変時の緊急対応は24時間可能である。入所時に主治医への変更をお願いして同意を得ている。外科等へは個人で受診している。入れ歯の調整が主になる歯科往診は実施していないが、必要に応じて協力歯科医を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師で介護職も日常の健康管理についての観察目があり異変時は血圧、熱等を測定し異常があればご利用者を寝かせて看護師に報告が来るようになっていきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急で入院の際後見人への連絡、救急車を手配し管理者が同行しました。そこで医師や病院関係者への情報交換等を行いました。後見人が到着してからは医師の話を一緒に聞き治療内容の情報を共有しました。その後、退院に向けて後見人と病院関係者と連絡を密にして無事退院にこぎつけることができました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の相談の際に重度化した場合の看取り迄の話をさせていただきます。契約の際にホームの重度化した場合の指針の書面を説明させていただき同意を頂いています。長期に及ぶ場合は状況を観ながら都度説明させていただきます。	昨年度は6名の看取りを行った。看取りに関わる職員間の連携ができており、「最期まで人として生きぬく」を踏まえた支援となっている。入居時に看取りまでの説明を行うが、看取りを前提とした重症者は受け入れていない。看取り対応は自然の流れでありたいと管理者は考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の重篤化に対応したケアが行われてきた経験で職員達が異常への対応を身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 防災、救助訓練を夜間を想定して行っています。救助場面ではご利用者にご協力をいただき一緒に訓練を行っています。	防災訓練は年2回実施している。津波危険区域に当たるが、移動が困難であることから家族と話し合い事業所内で対応する事を決めている。年に1回備品庫のチェックを行い、食料や水は多目の3日分を常備している。発電機の用意もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	上目線で声掛けしないよう目線を合わせてお話しするよう心掛けて接しています。	呼称は「さん」付けが基本だが、「ちゃん」付けしている職員には気づいた時に注意を促している。お便りに載せる写真等は、入居時に家族から同意を得て掲載している。トイレの看板には「トイレ」と大きな文字が書かれていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想いや希望が通ることは稀ですが、(無理難題あり)自己決定できる場面は多々見られます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、ホームの食材や消耗品を購入しに行く際に順番を決めてご利用者を誘っていますが、外出したいご利用者があれば順番通りにすることはありません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の認知レベルにより職員が決めるのではなくご自分で洋服を選んできていただいています。似たような服ばかり着ているようですが気に入っているお洋服のようで意思を尊重しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル席でじゃがいも、ニンジン、玉葱の皮むきやカットをご利用者が行ってくださいます。下膳もできるご利用者は台所付近まで運んでくださいます	昼食は少し遅めで13時頃からユニットごとに2つのテーブルを囲んでいる。職員も同席して話しながら一緒に食べている。献立は一汁三菜で、ご飯、味噌汁、唐揚げが手作りであった。便秘予防のヨーグルトには食べやすい大きさに刻んだバナナが入っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病のあるご利用者は全体に少なめに咀嚼の難しいご利用者は刻み方を工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行っています。一人ひとりの力に合わせて一部、全介助のご利用者も居ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分からトイレに行きたくてテーブル席より立ち上がる動作をされるご利用者には掴まれる導線を作っています。	排泄は8人が自立しているが、その内2人は見守りが必要である。誘導が必要な利用者には、起床時と就寝前、食事やおやつの際には必ず声掛けしている。人工肛門の扱いや誘導のタイミングに慣れ、オムツからリハビリパンツに改善した利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生野菜サラダ、手づくりヨーグルト、繊維のある穀類の提供や水分補給はお茶だけでなく麦茶、紅茶等工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご自分から入浴を希望されるご利用者は居ないので介護側から曜日を決めさせていただいています。当日に拒否するご利用者も居ますので無理強いせず次の日に再び声掛けをしています。又、当日時間をずらして声掛けしたり早めに入浴日であることを伝えておきます。	入浴可能な利用者は現在9人で、週2回15時頃から3～4人が入浴している。嫌がる利用者には、時間の変更や別の職員が声かけするなど、無理に勧めず待つ介護をしている。着替えは全員が毎日行い、清潔に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テーブル席で転寝しているご利用者は、居室でしっかりと休んでいただけるようにしています。しかしご利用者によっては居室で寝ていただく直ぐにフロアに出てこれれば再びテーブル席で転寝される姿があります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬剤師も同席していただき往診医、看護師、薬剤師と内服状況の情報共有、内服の変更等あった場合は業務日誌への記載や引継ぎを徹底し職員への周知を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	折り紙、編み物、縫物等手先を利用して短時間でも活動できるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や友人の協力の下で外食、墓参り、内科以外の病院受診等を行っている。希望があればその日の買い物に職員と出掛けています。	高齢化が進みリビングで過ごす利用者が多くなっているが、近隣のドラッグストアや酒屋に職員の買い物に同行して好きな物を買う利用者もいる。最近は散歩として出かけることはなく、行事の外出も今のところ計画されていない。個人的に庭の落ち葉拾いや土いじりをする利用者がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っているご利用者もいてご自分が買い物時に使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話のトラブルがあり(5分おきに電話をかける)入所と同時に使用が取りやめになりました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの壁面には四季折々のタペストリーをご利用者と共同で制作した完成品が貼られています。	玄関を入ると左右にユニットが分かれ、導線は車椅子で不自由しないように通路が広く確保されている。玄関に大きなクリスマスツリーが飾られ、タペストリーなどが壁いっぱい貼られていた。職員と利用者の共同制作である折り紙も大きな紙で壁に飾られていた。床暖房で部屋はとても心地良い暖かさであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	隣接しているユニットを自由に行き来できるようになっています。隣のユニットに友達になったご利用者の席に行き談笑している姿を観ます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に新しいものは購入せず自分の使い慣れたものを持ち込んでいますが多すぎる方もいます。	居室は各部屋広めで、エアコンとベットが備え付けでスプリンクラーも設置されている。テレビを持ち込む利用者もいるが、部屋で見ることほとんどない。着慣れた服をポールハンガーにかけ、仏壇を置く利用者もいる。職員手作りのアルバムが置かれ、家族にも好評である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札を掲げトイレの表示も迷うことがないように場所の混乱はありません。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202254		
法人名	(株)イッセイ		
事業所名	グループホーム平和		
所在地	静岡県清水区西久保1丁目13-26		
自己評価作成日	令和元年 11月 19日	評価結果市町村受理日	令和2年 1月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	令和元年 12月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム開設から13年経過し入所時より85名の認知症高齢者の尊厳を考えながら運営してまいりました。殆どの認知症高齢者が穏やかな最期をここで迎えます。色々なことを忘れてしまっても「ありがとう。〇〇さん」と最期に聴いた言葉の重さが耳について離れません。いろいろなことを受け止めて許して前に進んでいくことができる心の広さを学んでいます。そしてやりがいを持って運営しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自治会活動、地域商店の利用、バザー活動等地域に浸透した活動を行っています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表者は地の神様である鹿島神社の総代長をさせていただいて祭事を含めて地域との交流は密にあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介入困難な認知症夫婦が入居されてきましたが妻は付き添いということで入所されていた。近年増えつつある高齢者夫婦の介入について地域の住民にお話させていただきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、最近の入居事案、サービス内容等について報告をさせている。又地域での困りごとについては活発な意見が交わされました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	昨年は、市役所の担当者から運営推進会議に参加して下さりホームの現状、地域の住民たちの困りごと等活発な意見を交換しました。今年度は、市の担当者との話し合いは、まだ行われていません。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、身内の方から同意書をとって施錠のあった事実を記録として残したりしました。ミーティングで話し合いも行われました。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待への意識はミーティングでも議題として取り上げられ介護を顧みる機会を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	最近は入所時に成年後見制度を利用されているご入居者が増えてきているので職員との関わりも多いです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居される際にご家族と関わりが薄い認々夫婦の契約では認知症の妻への説明には苦慮しました。ご自身も入居されましたが、付き添いということで説明をないがしろにするわけにはいきませんでした。不安、疑問点はしばらく続きました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、1ヶ月分の一日の一コマを記入した介護記録のコピーを送っています。その際に意見や要望等があれば来所時にお話くださるよう一言添えている。意見、要望等は来所時に伺えるよう職員からご家族に声をかけるようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回賞与時に個別で面談を行い体調面や勤務上の悩み等を聞き出すようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員によっては家庭の事情を踏まえて勤務・条件を考慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格での職員が実践を経て介護職員初任者研修を受けました。今後は、介護福祉士資格をとるまで会社として補助していきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は、介護職員初任者研修での研修時に他施設職員と交流する機会がありました		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人を訪問し心身の状況を観させていただきます。ご本人からも困っていることの聞き取りを行い入所前に暫定のサービス計画書を作成しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談に時間をかけご自宅や、病院等に出向きご家族の不安を傾聴し安心できる回答を心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院から退院日を指定され在宅に戻ることが困難な認々夫婦にそれぞれ別の施設を探すという時間ありませんでした。1つしか空き居室がなく特養を申し込んであるご利用者が退去する数週間はショートステイを使っていただきました。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者がご自分の仕事のように食後、自ら台所に行き洗い物をしていた姿を観ます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほぼ寝たきりに近いご利用者の娘様が時間の許す限り食事介助に来てくださいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	最近、高齢者住宅から入居されてきたご利用者がいます。長年にあたり訪問介護をされていたヘルパーさんの慰問やヤクルトの配達を継続してお願いしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席は、ご利用者どおしの相性を観て調整しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	高齢者夫婦で夫が死去してしまい独居になった近隣在住の妻がいます。当社のデイサービスで開催しています地域の高齢者向けの無料体操教室にお誘いしました。現在は、月2回参加して下さり元気な顔を見せてくださいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護されたくないご利用者がいます。世話を焼いてもらいたくない。自分から困ったことは言ってくるので待つ介護を行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴、環境、支援者のこと等書面で職員に伝えます。後にミーティングで情報共有していきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1のミーティングでケアカンファレンスを開催し定期的な見直しや気になるご利用者の介護内容の見直しをおこなっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身の周りのことが出来ても孤独感から不安を募らせて入所してきます。介護されているつもりがない方が此処で暮らしています。金銭管理は後見人が行い内服や食事、入浴を支援し自然に毎日が終わりリセットされています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に時間をかけないよう個々の介護記録は日中・夜間一コマの場面を記入されている。細かな気になるご利用者は業務日誌に記入し報告している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族関係が厳しく任意後見人の手続きをする際に情報提供を書面で記入したり家庭裁判所の調査官の面談の立ち会いや主治医に診断書をお願いをしました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に在住していたご利用者が入所されてきました。土地勘もありホーム前のスーパーへの買い物は行き慣れた場所です。職員が買い物に同行してもらった際に商品の選び方等ご利用者から教わることで助けられました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は、入所時に往診医に変更を了承していただけか確認をしていただいています。内科以外の場合は、ご利用者の子供たちが役割分担をされて病院への受診に同行されています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師で介護職も日常の健康管理についての観察目があり異変時は血圧、熱等を測定し異常があればご利用者を寝かせて看護師に報告が来るようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したご利用者はありませんでした。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前の面談時や入所時の契約の際にホームの重度化した場合の指針について書面で説明させていただき同意を頂いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の重篤化に対応したケアが行われてきた経験で職員達が異常への対応を身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 防災、救助訓練を夜間を想定して行っています。寝たきりのご利用者の重度者の救助訓練を2人で行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	頭ごなしや上目線で声掛けしないよう目線を合わせてお話するよう心掛けて接しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望が通ることは稀ですが、(無理難題あり)自己決定できる場面は多々見られます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、ホームの食材や消耗品を購入しに行く際に順番を決めてご利用者を誘っていますが、外出したいご利用者があれば順番通りにすることはありません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選び着て出てこられるご利用者もいます。髪の毛の薄いご利用者で帽子を多く持たれていてご自分で当日の気分で選んで被ってらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に台所で食事の下準備(ごぼうのささがき)をお願いすると快く台所に入ってきてお手伝いをしてくださるご利用者がいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲はあり介助で召し上がるご利用者がいます。。義歯がないのでブレンダーを召し上がるのでラコールを栄養補給にしていますが肥満傾向にあります。体重測定もできないご利用者です。水分量は確保できます。食事量を減量している最中です。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行っています。一人ひとりの力に合わせて一部、全介助のご利用者も居ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は尿意、便意がなくてもトイレに誘導させていただいている。しかし夜間は良眠することを優先にしています。起床されない方はオムツの交換になっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生野菜サラダ、手づくりヨーグルト、繊維のある穀類の提供や水分の内容を飲んでいただけるよう考慮しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回は入浴していただいています。ご自分から入りたい希望をされる方は居ません。声掛けのタイミングで拒否が続くご利用者も居ます。運よく浴室に誘導できてもそこから先がご自分でということで拒否にあいます。介入できる時を待つしかありません。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テーブル席で転寝しているご利用者は、居室でしっかりと休んでいただけるようにしています。又、食後午睡の希望のある方や座っていることが多い方はお部屋で休んでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬剤師が同席していただき往診医、看護師、薬剤師と内服状況の情報共有、内服の変更等あった場合は業務日誌への記載や引継ぎを徹底し職員への周知を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭の落ち葉を拾ったりお掃除をして下さるご利用者がいます。ご自分の家を大事にされていた方です。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や友人の協力の下で外食、墓参り、内科以外の病院受診等を行っている。希望があればその日の買い物に職員と出掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っているご利用者もいてひ孫の訪問の際にお小遣いをあげることを楽しみにされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を利用しているご利用者もいます。明け方子供に電話してしまうこともあります。了解のもとでご利用者が携帯を持っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの壁面には四季折々のタペストリーをご利用者と共同で制作した完成品が貼られています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	隣接しているユニットを自由に行き来できるようになっています。隣のユニットに友達になったご利用者の席に行き談笑している姿を観ます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に新しいものは購入せず自分の使い慣れたものを持ち込んでいただくようお話しさせていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札を掲げトイレの表示も迷うことがないように場所の混乱はありません。		